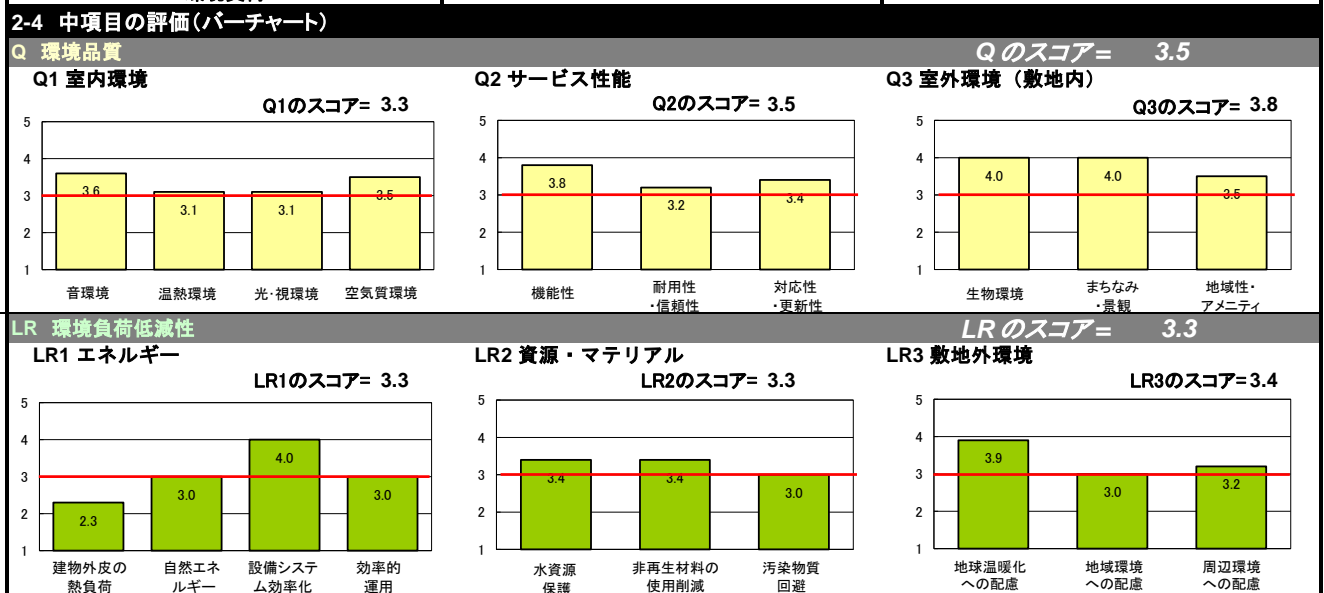
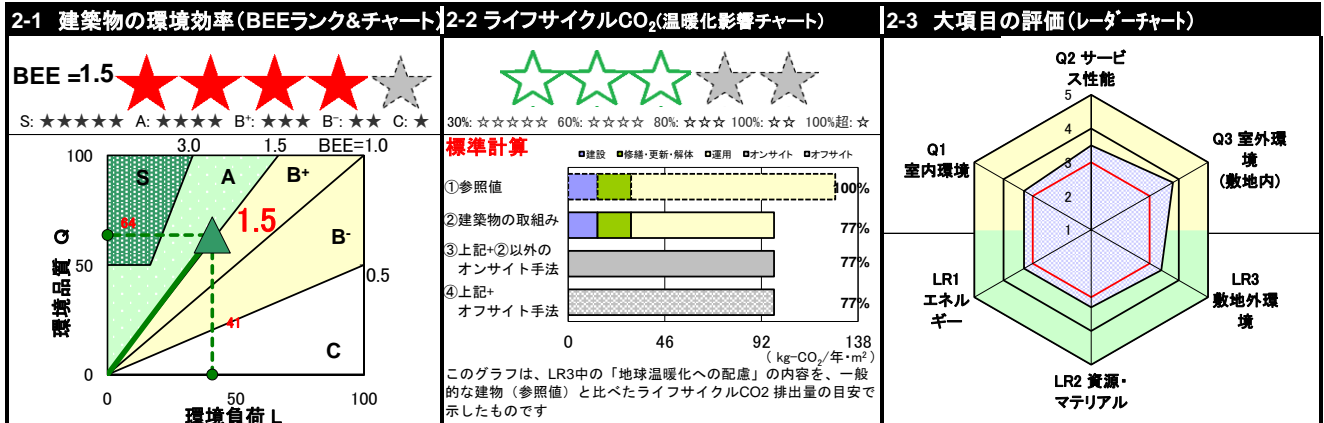


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アイホン新社屋	階数	地上8F
建設地	名古屋市熱田区	構造	S造
用途地域	商業地域、準工業地域、準防火地域	平均居住人員	550 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年10月14日
敷地面積	3,866 m ²	作成者	
建築面積	1,884 m ²	確認日	2025年10月14日
延床面積	12,294 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>施主創業地に自社オフィスビルを新築するため、外観は創業地の方位を外壁カーテンウォールでデザインしている。快適な執務空間を保ちつつ、省エネルギーに配慮したスマートウェルネスオフィスを目指した。</p>	特になし	
<p>Q1 室内環境</p> <p>高い遮音環境を要求される会議室はすべて遮音壁・遮音天井仕様としている。執務室は床がタイルカーペット、天井は岩綿吸音板と吸音性能の高い建材を採用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>居室の天井高は2.8m以上確保されている。6階社員専用サロン、8階カフェテリアにおいては社員がリラックスできる空間となるよう内装家具に配慮した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地境界から建物まで3m離すことで、建物高さによる圧迫感の軽減を図るとともに、敷地外周に高木や中木の緑地緩衝帯を設けることで、歩行者にとっても建物利用者にとっても心地のよい空間になるよう配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物が運用時に消費するエネルギーを極力削減するよう配慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>OAフロアや可動間仕切壁等のユニット部材を採用し、解体時におけるリサイクル促進に配慮した。また、節水型便器や自動水栓等の省水型機器を採用し、節水を図っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>車寄せや駐車場の計画により周辺の交通負荷低減を図った。また、適切な照度レベルの屋外照明・広告物照明を計画し周辺環境へ配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)アイホン新社屋

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。